

病気と闘う子にエール

徳大病院におもちゃ贈る

小児病棟の支援活動に取り組む東京の小児がん患者・家族が、徳島大学病院小児医療センターに子ども用のおもちゃを寄贈した。おもちゃを提供したのはサッカーJ2

徳島ヴォルティスからポルトガル1部リーグのチームに期限付き移籍している渡井理己選手(23)。活動を知り、「少しでも力になればうれしい」と協力を申し出た。

東京の小児がん患者・家族

活動しているのは、小児がんを患っている子どもとその家族。同じ病院に入院して知り合い、2019年、ユーチューブの「ロハロハちゃんねる」を開設した。闘病記や治療の様子、母親の気持ちなどを発信している。

子どもの1人が20年に5歳で亡くなった後、1年間の活動休止を経て関東地方などの小児病棟におもちゃを寄付するようになった。母親の山本麻理さん(41)と佐藤理佐さん(38)は命の大切さを伝える講演活動も続けている。

一方、渡井選手はプロのキャリアを始めた徳島への恩返しとして、21年春から独自に社会貢献活動を展開。「サッカー選手として自分も口頃から大勢の応援を受けている。今



小児がん患者・家族の団体におもちゃを提供した渡井選手

J2徳島から移籍中 渡井選手提供

度は自分が力になりたい」とおもちゃの提供を申し出た。患者・家族は、渡井選手の所属クラブがある徳島の病院への寄贈を決めた。

6月20日、山本さんと佐藤さんが病院を訪れ、木製のままごとセットや知育玩具を大西真理子看護師長らに手渡した。渡井選手からの手紙には「みんなと遊べることを楽しみにしている」と、激励の言葉がつけられている。(石崎義典)



大西看護師長(左から2人目)らにおもちゃを手渡す佐藤さん(端)と山本さん(徳島大学病院)